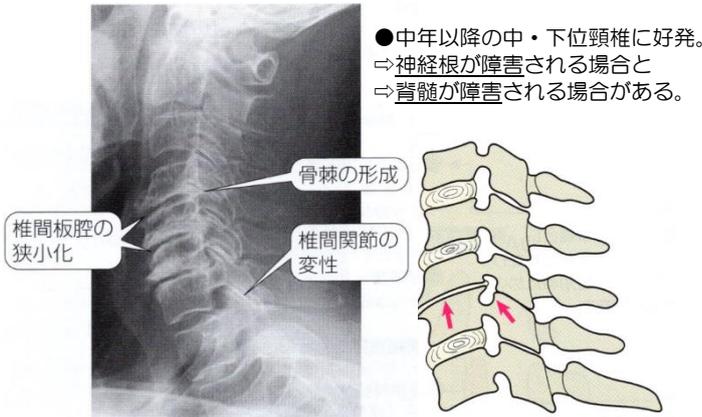




まとめ	神経根症 (外側型ヘルニア)	脊髄症 (正中ヘルニア)
特徴	●退行性変性などで髄核が脱出したもの ●→ 代の→ 多い。	●I型と椎間板症の鑑別は困難。 ●中・下位頸椎に好発する。
症状	●障害高位に一致した症状がみられる。 ・一側性の症状 ・筋力低下、筋萎縮 ・しびれ感、感覚障害 ・腱反射の減弱、消失 ・病的反射、足クローヌスなし ●検査法→ →	●障害髄節高位に一致した両側性の症状 ・筋力→ 、腱反射→ ・手掌全体のしびれ ・巧緻性運動障害 ●障害髄節より下は腱反射→ 病的反射→ ・手指の痙性麻痺⇒ミエロパチーハンド ・下肢の痙性麻痺 ・膀胱直腸障害 ・病的反射⇒ホフマン反射/足クローヌス

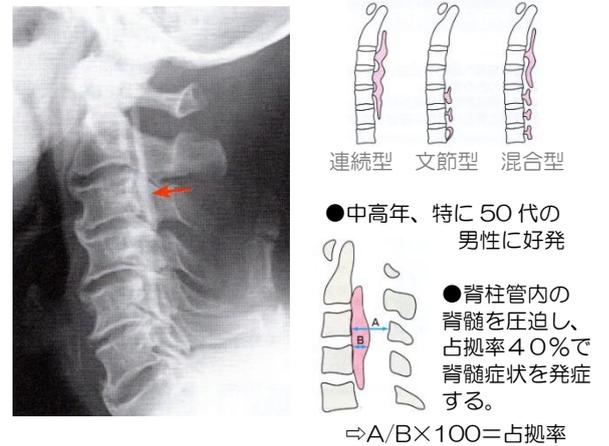
### ③ 頸椎症 (頸椎OA)

1-概要 ●頸椎構成体の退行性変性により症状をきたす疾患。



### ④ 後縦靱帯骨化症 (OPLL)

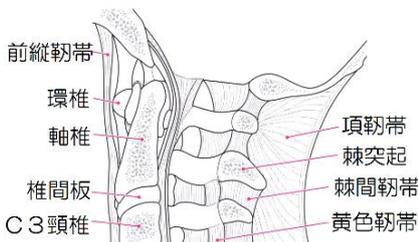
1-概要 ●椎体後壁の後縦靱帯が骨化、肥厚した疾患。



### ⑤ その他炎症性疾患

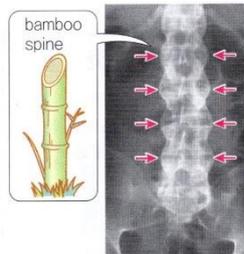
#### 1-バルソニー病

●棘間靱帯の石灰化した疾患。  
病的意義は少ない。



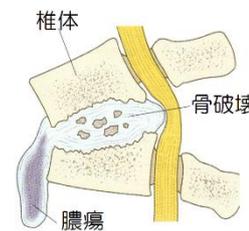
#### 2-強直性脊椎炎 (AS)

●10代~30代男性に発生する慢性関節炎。脊柱後弯。



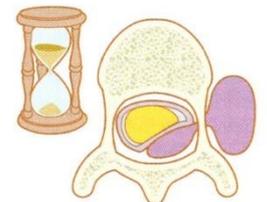
#### 3-脊椎カリエス

●結核感染による骨破壊  
①冷膿瘍 ②亀背 ③脊髄麻痺



#### 4-砂時計腫

●癌の頸椎転移  
脊髄腫瘍が椎孔を  
通って外に出たもの。



頸椎症	特徴/好発	●加齢に伴う退行性変性疾患 (OA)、椎間板症や椎間関節症を基盤に骨棘や石灰化を生じる。神経を圧迫した場合以下の分類になる。 ●50~60代の男性に好発 ●頸部痛、可動域制限を生じる。
	頸椎症性 神経根症	※頸椎椎間板ヘルニアの症状を参照
	頸椎症性 脊髄症	
後縦靱帯骨化症	特徴	●50代男性に多い。 ●転倒やムチ打ちで脊髄損傷する可能性がある。
	病態	●後縦靱帯が骨化し狭窄率40%をこえると脊髄を圧迫する。

ご清聴ありがとうございました。